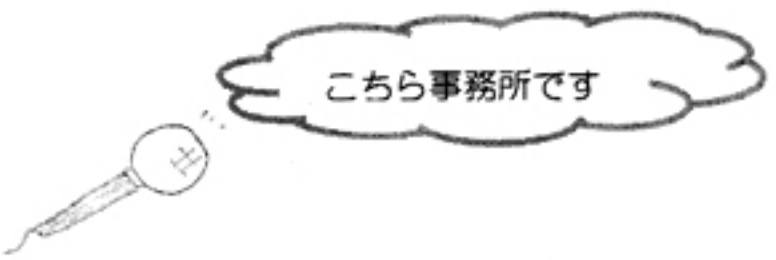
ねじりはちまき

１２月　師走　大雪　冬至の月になりました。
１２月7日　大雪です。８日　針供養。２２日　冬至です。
２３日　天皇誕生日。２４日　クリスマスイブで、３１日　大晦日となりますね。

今年も残りわずかとなりました。皆様からは、一方ならぬお引立てを頂きまして、誠に有難く厚く御礼を申し上げます。来る年もよろしくお願いを申し上げます。
来年は猪年ですね。「猪突猛進」、一心不乱に突っ走れる年になれればと思います。
そして来年は、一大事である天皇陛下が変わります。もちろん、年号も変わります。平成から何に変わるのか楽しみですね。

来る年が素晴らしい年でありますように、心からお祈り申し上げます。

幸田　常一



本宮市の新築工事の現場は先月１件完成いたしました。
引き続き、本宮市の現場で住宅新築工事を１件お世話になっております。
こちらの現場は、もう間もなく完成の予定です。

夢を見続ける男　NO56

運や縁起について

今回は「運や縁起」にまつわる話を取り上げてみたい。皆さんは「運や縁起」についてどんなにお考えだろうか。関心の度合いは様々だろうし、ましてや自分の生き方の上でそれらにウエイトを置くかは様々だろう。しかし、どうなるか知れぬ人生の行き先を思案する時、判断に迷う時頭をよぎるものの一つといえようか。

先ず「運」についてだが、「運」のつく言葉に「運命」があるが、これも自分の人生を前向きに考えるか、後ろ向きに考えるかでニュアンスが全く違ってくるので不思議なものだ。「運命」を「命を運ぶ」と考えると、“これから自分の努力次第で造り上げるもの”とのイメージが強くなる。一方「運命」を“定め”といって“もう決まってしまっている”と考えると、もうどうしようもないとのイメージが強くなる。皆さんはどうだろうか。でも、これは特に「運」を意識したものではなく、人間が生きるうえでの一般論に通ずるものであろう。では、「神社で「おみくじ」を引く時の心境はどうだろう。くじの結果、吉凶いずれがでても、自分の人生を支配する程ものとは思わないだろう。「吉」がでれば喜ぶが、「凶」でなくてよかったというくらいの軽い気持ちであろう。ところで「宝くじ」に賭ける気持ちはどんなものだろうか。もちろん人によって違うが、運がよければ何か当たるだろうと軽い気持ちで少額買う人もあれば、確率論で高額の当たりくじの出やすい売り場で、絶対当たりたいと高額での買い方をし、いわば当たり運を引き寄せるような買い方をする人もある。いずれにしても、「抽選の運に任せる」ことには変わりはない、　　のだが。

ところで「運がよい」、「運が悪い」というのは、どんな時にそういう言い方をするのだろうか。一般的にどんな場合というのは難しそうだ。あることに結果が出て、その結果についての評価としての言い方になる。人によっての極めて主観的な使い方かもしれない。ある試験に合格したとすると、「運がよかっただけだ」という言い方もあるし、「実力の当然の結果である」という言い方もある。この場合、「運が良かった」という言い方には、本人が言うとそれは謙遜しているように聞こえ、他人がいうと妬みが籠っていると聞こえる。それにしても「運」のつく言葉は結構見られる。「幸運を祈る」「運が開ける」「運が向いて来る」「運がつく」「運を天に任せる」「運を試す」「運が尽きる」などが挙げられる。いずれにしても、「運」がつく言葉には自分の力に加え、“自分の力を超えたもの（神仏とは言わないにしても）に賭ける”ニュアンスが窺える。そこには、全く努力もせず、“運に頼る”というのではなく、為すべき努力を尽くしてその結果を“運に任す”ということを先人は教えているかも知れない。人の生き方において、“くじ運”に頼るような生き様ではまさしく“運は開けない”と知るべし一当たり前といえば当たり前だが、脚下照顧ではある。考えてみれば、「運」という言葉を使うとすれば、「運を引き寄せる」ような生き方をしませんか、となるのかなと思うが、皆さんはいかがでしょうか。つまり、「運」は結果をみての評価であるから、良い結果が得られるようにそんな生き方をしよう、となると思うのだが。

次は「縁起」の話に移りたい。人はどちらかいうと、「運」より「縁起」の方を気にするかも知れない。それでは「縁起」とは何ぞやであるが、皆さんは「縁起の良し悪し」についてどの程度意識するだろうか。そもそも「縁起」とは、社寺や諸神、諸仏の開基、由来、霊験を記したものを指す。それと、我々が意識する「縁起の良し悪し」とはどう関連するのだろうか。神仏という信仰の世界のものを庶民の生活智慧で変身させたものといえようか。その辺のところはよく分からないが、よく考えたものだと感心してしまう「縁起物」がある。皆さんは「縁起物」というとどんなものを思い浮かべるだろうか。例えば、酉（とり）の市の熊手がある。これが何で縁起物なのか。酉の市の由来は神話の時代に遡るようだが、時を経て今日、「開運招福・商売繁盛」を託した「装飾熊手」が露店で売られるようになったとのこと。つまり「熊手」は、運やお金をかき集める縁起物であるというわけで

ある。よく考えたものだと思ってしまう。ただし、人から奪う形でなきよう願いたいものだが。その外に縁起物といえば、招き猫や福達磨、福助などがある。招き猫はよく見られるが、由来は諸説あるようだ。かってはネズミを退治するので養蚕の縁起物であったが、今日では商売繁盛の縁起物になっている。右手（前脚）は「金運」を招き、左手（前脚）は「客」を招くとされる。ただし、両手（前脚）を挙げたものは、欲張りすぎてお手上げ状態になりかねないのでご用心をといわれているとのこと。これは心すべきことだと思う。

「縁起でもない」という時はどういう場合だろう。病院では病室番号に「４・９」の数字は使わないとされているそうだ。患者の命を扱うのだから、「死・苦」では縁起が悪いとされるのはよく分かる。数字でも野球においては９人でチームが成り立ち、その「４番打者」はチームの主力打者であることを表わし、数字の意味するところも様変わりする。
数字の縁起でいうと、「七五三」や「八の末広がり」は「祝い事の数字」とされる。「七五三」でいうと、何で子どもの成長をこの数字で祝うのか。それはどうも江戸時代の中期に武家の儀式として始まったことに由来するとのこと。３歳の男女は髪を伸ばし始める（髪置き）、５歳の男子は初めて袴を着ける（袴着）、７歳の女子は帯を使い始める（帯解き）という訳だ。そして１１月の１５日（７＋５＋３）を祝い日とした。今は祝い方が変わってきているが、そもそもはこういう経緯だったと知ると面白いものだ。お祝いと言えば、ご祝儀として如何ほど包むか、その金額の数字を縁起良いものにしようと気にしませんか。また、「七五三」の数字には「ラッキー・セブン」もあるし、「ご縁の５」もあり、「三本の矢」や「三本締め」もあって、尋ねゆけばもっと深い意味に辿り着けるのかも知れない。そういえば、目出度い席ではお手を借りて「三・三・七拍子」がなされるのもこの数字だ。
さて、縁起を担ぐという言葉があるが、これが忌み嫌うものを避けるという意味であれば、鬼門（北東）の方角を避ける（陰陽道の考え）という考えもある。家の鬼門の方角にヒイラギ（魔除けになるトゲがある）や南天（難を転ずる）を植えるというのを聞いたことがないだろうか。それと、因縁があって作物ではキュウリを作らないという農家もあるがこれも縁起に関係すると言える。これと同列に扱えないかも知れないが、今相撲界で話題の「女人禁制」も一種の「忌むべきもの」といえる。女性は土俵に上がってはいけないとされる。その外にも山や神社にもそういうところが未だあるのだ。女性が忌むべきものとされた「月のもの」は、「新たないのち」を生み出す源泉の尊い働きであり、なぜ禁制扱いにされるのか容易には解せないのだが、皆さんはどう思われるでしょうか。

ここまで、「運や縁起」について書いてみたが、これらは要するに「幸せに生きたい」との願望のなせるところであろうか。一生懸命努力しても思うようにいかないことがあると、思わず一縷の望みを何かに託したい気持ちは誰にでもある。その一縷の望みの門を閉ざさないようにし、一筋の光を差し込んでくれる存在であるといえるかも知れない。
今回はこれで終わりとしたい。

滋賀県 湖西の２山 と 京都の旅

【今回登った山の概要】（◎は日本二百名山、○は日本三百名山）

11／18～21

1　蓬莱山　（○ ほうらいさん、1174m、琵琶湖の展望台・比良山系南部の盟主）

2　武奈ヶ岳（◎ ぶながたけ、　1214m、琵琶湖の展望台・比良山地の主峰）

2011 年の東日本大震災を機に復活した東京の友人N夫妻から、11 月に京都に行くので同行しないかと誘われた。京都在住の友人M夫妻とも合流するという。奥さん孝行に是非にと誘われた。

自分としては、観光だけではもったいないので、いろいろ検討した結果、滋賀県の琵琶湖・湖西地方の２つの山に登ることにし、妻に話したところ妻は山登りは一つで沢山ということ。自分は山を二つ、妻は山一つに友人達との観光。夜は二晩とも 3 組夫妻での会食。友人達と妻には申しわけないが自分にとっては最高の形になった。

18 日（日）　郡山駅 21 時発の夜行バス近鉄ギャラクシー号に乗る。

○蓬莱山

19 日（月）　京都駅八条口には予定より早く 6 時に着く。コインロッカーに荷物を預け、7：00 発の湖西線の電車に乗る。高架を走る車窓の東側に、まだ夜明けから覚めたばかりの琵琶湖が曇り空の下に浮かんでいる。

蓬莱駅では中学生が結構降りた。蓬莱山方面を仰ぐと、縦走路のある 1000m 前後の山々の山頂部は雲の中だ。

蓬莱山への登山コースはたくさんあり、今回はその中で縦走路でなく山道歩行が最も短時間の金比羅（こんぴら）神社経由のコースを選ぶ。7：50 スタート。

横断歩道で中学生に声をかけている交通指導のおじさんに登山口に行く道を聞いたら、金比羅峠からは倒木などがあり道が荒れているので御注意をと教えてくれた。霧雨になりカッパの上着を着ける。どんよりとした空の樹木に覆われた緩やかな舗装路の林道をひたすら歩く。

8：55 金比羅神社着。右手の斜面に石の鳥居があり石の階段がついている。先を急ぐ。少し晴れ間が出てきたときの黄葉がきれいだった。9：40、林道歩きが終わり、右手の山道に入る。落ち葉の下に隠れている石に注意し、時々倒木を越えたりくぐったりしながら登っていく。霧の中に入る。

10：40、金比羅峠着。かつての生活道路として使われていた雰囲気がある小広い峠で休憩する。琵琶湖方面の視界はない。登山路の斜面にはイワウチワの群落が所々にある。

低木の樹林の中、溝になっている道を登って行くと稜線が近くなり、霧がさ

らに濃くなり風も強くなっていく。電話の呼び出し音に似た音が風に乗って聞こえてくる。視界は20m位。

樹林がなくなり笹原の緩やかな丸みを帯びた頂陵部に出ると人工の構造物が霧の中に浮かんで来た。標識に従い進むとしだいに姿がはっきりし、音の正体も分かった。11：20、山頂の標識を確認する。

構造物はスキー場のリフト乗り場だった。濃い霧の中で人気もなく動くリフトと大きな疑似電話音は薄気味悪かった。湖東地方はむろん琵琶湖の眺望も全くない。山頂標識の写真を撮ってすぐに退散する。

11：55 金比羅峠、12：30 林道、13：10 金比羅神社着。お参りすることにする。石の鳥居をくぐりうっそうとした樹林の中に入り、急なジグザグの 50 段以上ある石段を登ると小さな平場になり社務所と書かれた小屋があった。少し行くと大きな岩塊の重なった間から小さな滝が流れ落ちていてしめ縄が張られていた。その右手奥の少し高いところに覆い堂があり、中に高さ 2.5m位の細工の施された立派なお宮があった。覆い堂の前は絶壁の崖で鉄の柵がある。前方は谷間の上に空が広がっていたが、曇りで山の向こうの眺望は得られなかった。おそらく琵琶湖が見渡せるのだろう。残念。

金刀比羅（琴平・金比羅）神社は、海上交通の守り神である四国の金刀比羅神社を総本宮とし全国に 600 社余あるという。ここは湖上交通の守り神なのだろうか。

14 時半蓬莱駅着、歩行時間 6 時間半うち山道は 3 時間弱。久しぶりの妻と二人の山行を無事終わる。振り返ると蓬莱山は下まで雲に覆われていた。

16 時、Nさんが手配してくれた素泊まり・格安の宿所に落ち着いてから、近くのスーパーで翌日の朝食と昼食の買い物をする。

食事会はM君の手配により京都南座近くのこじんまりした和風レストランで、京都、東京、福島の 3 組夫妻が旧交を暖め、楽しく美味しくいただき杯を重ねた。翌日は武奈ヶ岳の単独山行だ。

〇武奈ヶ岳

20 日（火）　バスで京都駅に向かう。早い時間でも大きなトランクを持ったアジア系の観光客が沢山乗って来てほぼ満杯状態。

6：45 発の湖西線に乗る。京都から離れる電車は空いている。前日とは打って変わって全くの快晴。高架の車窓から見る琵琶湖には朝日が差し青空を映して光り輝いている。

前日は雲に隠れていた蓬莱山頂の右に見えるスキー場の施設は朝日を反射している。比良駅で降り、歩くと 1 時間くらいのところを登山口までバスで移動しようと思っていたが、今の季節は土・日・休日以外は運行していなかった。バス停に表示してあるタクシー会社に電話したら、この地区で乗務員を手配で

きるのは 2 時間後とのこと。あきらめて歩こうとしたら、黄緑のスタッフジャンパーの一人が声をかけてきて、軽ワゴン車で送ってくれるという。助かった。時々自分と同じような人達がいるらしい。

8 時、登山口の“イン谷口”発、雲が多くなってきた。キャンプ場を抜けて山道に入り、「大山口」の標識から右手のダケ道コースに向かい沢を渡る。谷筋のうっそうと高木が茂る樹林帯は薄暗いが登山路は踏み込まれていて歩きやすい。尾根に出てベンチのある「カモシカ台」9：10 着。琵琶湖に面した方角が開けているが湖は見えない。時雨れてきたのでカッパの上着を羽織る。

なだらかなジグザグの登山路の斜面には前日の蓬莱山と同じくところどころにイワウチワの群落がある。登り詰めて少し下ると北比良峠の草紅葉の広場（？）に出る 10 時。ここはかつて比良ロープウェイの山上駅があった場所で琵琶湖の眺望が良いと説明板に書かれているが、今は見通しはない。

標識に従い少し下ると八雲ヶ原という湿原に至る。小さな池が何箇所かあり木道が整備されている。人気のない湿原は淋しい。比良スキー場跡地の広い斜面を横切り樹林帯に入っていく。その日初めて出会った登山者の話では、武奈ヶ岳山頂付近は吹雪いているとのこと。それぞれ単独の下山者 3 人とも同じようなことを言っている。不安と期待が膨らむ。

10：45、イブルキのコバという分岐には檜（？）の古・巨木があり枝が何本も阿修羅の腕のように伸びていた。

広葉樹林の沢筋を登り、コヤマノ岳の稜線に出る。付近は巨木ではないが葉の落ちたブナ林で「武奈ヶ岳」の名前に納得する。

11：30、標識のところで休憩。霧が濃くなり視界は 30m～40m、樹林の中なのに風も強くなってきた。

11：45 山頂着、視界はさらに落ちて 20m先もぼんやりとしている。樹木もなく広い感じだ。風に飛ばされて時折雨粒がぱらぱらとカッパに当たる。岩陰に若者が一人休んでいた。山頂の標識で自撮りし、撤退する。雪には出会えなかった。

“360 度の展望、足下に琵琶湖を眺め、石川の白山なども見える”という景色の堪能はまたの機会にする。

往路を下り、13：30 ロープウェイの山上駅があった北比良峠の広場に着く。振り返るとまだ武奈ヶ岳の上部は雲の中だ。琵琶湖方面は少し青空があり、ここでようやく琵琶湖を眺めることができた。薄い雲の隙間から弱い陽が差していて、ぼんやりした湖東の山々を背にした湖面を黄金色に照らしている。

穏やかな琵琶湖の景観は今回の山行のご褒美だ。

登山口近くになって、ダメもとで履歴の残っていたタクシー会社に電話してみた。車は湖西線和邇（わに）駅から向かうので、時間がかかること、メーター

料金の他に別に「お迎え料金」として 200 円かかるとのことだったが、一も二もなくお願いした。比良駅 15 時半着。歩行時間 7 時間。

今回の滋賀県湖西地方 2 山の山行を無事終わる。

食事会はM君の手配で、祇園のちゃんこ鍋の老舗だった。楽しく美味しくいただき、酔いの回りが速かった。

2 日間つきあってくれたM夫妻に感謝し、次回の再会を誓いN夫妻とタクシーで宿舎に向かう。

○哲学の道

21 日（水）　最後の日は、N夫妻とも別行動。自分達は金戒光明寺（こんかいこうみょうじ）の会津藩墓地を訪ねた。会津生まれの妻は一度来たことがあるという。

金戒光明寺には、幕末に京都所司代が置かれ、千名の会津藩士が 5 年余にわたり常駐したところ。右手奥、西雲院の隣に「會津藩殉難者墓地」があった。「會津墓地の由来」と刻まれた比較的新しい横長の石碑には、5 年間に亡くなった 237 霊と鳥羽伏見の戦いの戦死者 115 霊が祀られていると記されている。

雨よけのある所に線香と墓参ノートがあり、「會津墓地保存会」の石柱の立つ、苔むして文字が読み取れなくなっている縦長の石碑の前には、生花が飾ってあった。線香を手向け異郷の地に眠る会津の先人の冥福を祈る。

門前のお店で銀閣寺までの行き方を尋ね、「哲学の道」を経由して行くことにする。

哲学の道南端の若王子（にゃくおうじ）神社の脇に、偶然に「新島襄・八重の墓　登り口　墓まで 20 分」の標識を見つけた。登り切った樹林の中の平場に柵で囲まれた「同志社共同墓地」があり、その真ん中に勝海舟が揮毫した「新島襄の墓」、左手に小ぶりな「八重の墓」があった。手を合わせる。

麓の幼稚園の子供達が遠足にきていた。

哲学の道の左側には民家と民家の間にしゃれた小さな店がたくさんあり、多くのアジア系の外国の人が歩いていた。自分勝手に思い描いていた「哲学の道」＝「思索の道」ではなかった。右側を流れる堀の両側には白い花を咲かせているものがあった。桜の開花時期ではないし、妻はサザンカではないかというが分からない。暖かな陽気で一瞬春の桜堤を歩いているような錯覚を覚える。

久しぶりに訪れた東山慈照寺銀閣の紅葉と竹林が印象的だった。

バスで京都駅に向かい、昼食のあと八つ橋とちりめん山椒のお土産を買い新幹線に乗る。

滋賀県湖西の山二つ、旧友との再会、會津藩墓地と八重の墓参り、哲学の道散策、銀閣・・妻孝行・・・滋賀山行と京都の旅を無事終わる。

平成３０年１２月　ＮＯ７４　　アンチエイジング　山旅遊人

✿✿✿御 礼✿✿✿

１１/２４（土）、２５（日）の２日間完成内覧会を開催させていただきました。天候にも恵まれ、お陰様で２０組のお客様のご来場をいただきました。足をお運びいただき、ありがとうございました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

おいしい❤12月

「冬至カボチャ」

カボチャにはカロテンが豊富に含まれており、ビタミン類もバランスよく含まれています。食物繊維も豊富です。これからの寒さを乗り切るための抵抗力をつけてくれるすばらしい野菜です。

昔から、冬至にカボチャをいただく慣わしがありますね。「カボチャは栄養満点！風邪ひかないように食べなさい。」と子どもの頃何度もいわれたものです。カボチャは煮つけの他にも、アズキといっしょに煮るいとこ煮もおいしいです。コロッケやサラダやスープもおいしいですね。
ああ、カボチャ食べたくなってきましたね。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

＜年末年始お休みのお知らせ＞

H３０、１２／３０（日）～H３１、１／６（日）まで
お休みさせていただきます。
仕事始めの１／７（月）は平常通りです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

平成３０年１２月５日発行
有限会社　幸田建設
発行責任者幸田久美
〒９６９－１２０４
本宮市糠沢字八幡１番地１
電話０２４３－４４－３８１６

☆後記☆

あっという間に１２月。
今年も大変お世話になりました。
皆様、どうぞよいお年をお迎え下さい。新年号はなるべく早めにお届けできるよう頑張ります。

（事務員ｋ）